

及び「立科有線放送」を通して、毎月、ささやかな体験と、ささやかとは到底言えない反省や後悔に基づいた提言をさせていただきます。

ご自分の心のフィルターで取捨選択され、ご自身の養育及び教育実践に少しでも生かしていただければ、幸いです。

ご意見やご要望、ご質問がございましたら、ご遠慮なくお寄せいただきたいと思います。

なお、「広報たてしな」は、立科町のホームページでもご覧になれますので、ぜひご利用ください。

子どもたちの健やかな成長のために、下の図（「欲求の階層」）のような、「人間誰もが持っている欲求」の充足が求められています。

この「欲求の階層」は、米国の心理学者、アブラハム・マズロー（1906～1970）が、人間と人間の行動に関心を寄せる人のために提唱したのだそうです。——2ヵ月ほど前、小・中学校の先生方から、この提唱は今でも学校教育の場に受け継がれているというお話をうかがい、大変心強く思いました。

マズローは、「自然な欲求を充たすこととは、決してエゴイズムではない。むしろ生理的な欲求や安全・安定の欲求が充

たされると、愛や集団所属の欲求、承認・自尊の欲求などの高次の欲求が出てきて、自己実現から自己超越に至る人間成長につながっていく。」と説いています。

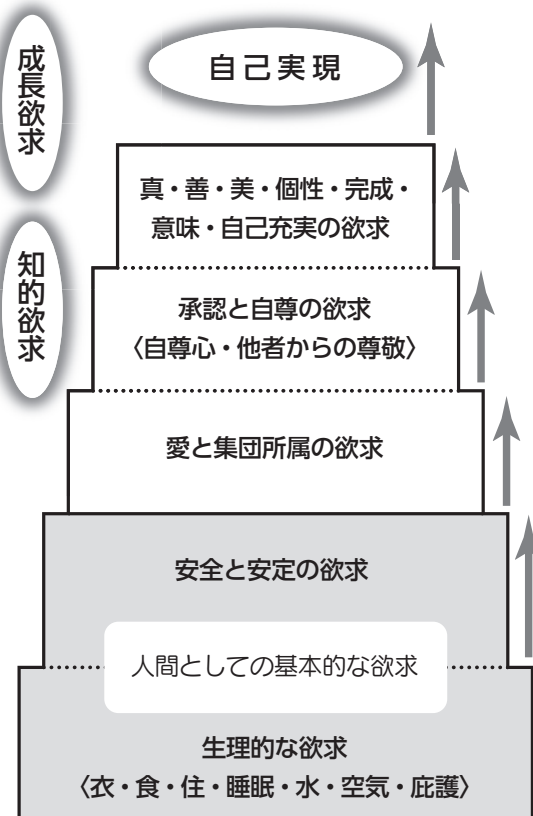
そして、逆に、人間は大人も子どもも衣食住や安全、無条件の愛情、承認、集団所属などの人間としての基本的な欲求が充たされないと、苛立ちや不安を覚え、不安定な心理状態に陥ってしまうと説いているのです。

特に、子どもは、寒さをしのぐ「衣」と飢えをしのぐ「食」、雨風をしのぐ「住」がなく、家庭や学校における安全な「居場所」、愛され、認められ、期待されている実感を抱けないと、学習活動に集中できなかつたり、いじめや暴力、犯罪など、大人が眉をひそめるような反社会的な問題行動によって、また、不登校や集団不適応などの非社会的な行為によって、その苛立ちや不満を表面に出したりすることがあります。

多くの子は、家庭及び学校における日常的な配慮によって、このような欲求は自然に充たされていますので、さほど案ずることはありません。

しかし、子どもは、欲求が充足されないための苛立ちや不満、不安、怒り、寂しさを言葉で伝えないケースが多いので、大人は、常にマズローの「欲求の階層と

「欲求の階層」アブラハム・マズロー



人間誰もが持っている欲求

ア. 欲求は、目標を達成するための動機付けとなるもので、決して悪ではない。
(欲求←→我欲・欲望)

イ. 「基本的な欲求」から階層的に充足していく必要がある。充足された欲求は、欲求ではなくなる。

ウ. 人間のすべての欲求の中で、最も強いのは、生命の維持に関する「生理的な欲求」である。

エ. 「生理的な欲求」から、順次、「安全と安定の欲求」「愛と集団所属の欲求」「承認と自尊の欲求」「自己充実の欲求」が充足されると、「自己実現の欲求」が表れる。

オ. 欲求の階層にかかわらず、人はより高次の存在価値を有する自分でありたいという「成長欲求」と、知識や理解への願望である「知的欲求」を持っている。

充足」という視点で、子どもを温かく見つめる必要があります。そして、子どもは大人以上に、人間としての基本的な欲求の充足を求めていますので、平成30年度「立科教育」の出版に当たって、親御さん、並びに、先生方は、その充足に全力を傾けていただきたいと思います。

価値が大きく様変わりしていると感ずるのは、決して人間の本質的なものが変化しているわけではなく、「人間誰もが持っている欲求」が充足されていないことを示しているのでしょう……。

マズローが生きた時代の人々と比べ、情報化の時代に生きる現代人の感性や価値

《参考図書》

「マズローの心理学」フランク・ゴッブル著
小口忠彦監訳 産能大学出版部発行